

「小鳥と鏡(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

(2019 年春の記録)

「ジョウビタキ」という野鳥がいる。郊外の住宅地などでも普通に見られる野鳥だ。私が小学生の時、父の自動車のバックミラーにこのジョウビタキがよく現れた。自分の姿をミラーに映して、その姿を攻撃しているのだ。ボンネットにフンをするので、父は困っていた。学校の図書室で調べると、「ジョウビタキは鏡に反応する性質がある」と書いてあった。私はそんな変わった性質は、ジョウビタキだけだと思っていた。



去年の春、山荘の餌台に鏡を置いてみた。ジョウビタキのような野鳥の性質を試そうと思ったのではなく、野鳥をいろいろな方向からカメラに写したいと考えたからだ。しかし、すぐに野鳥が反応した。



一番最初に反応したのは「ゴジュウカラ」だ。鏡に映った自分の姿をじっと見つめている。「誰だこいつ、見かけないヤツだね・・・」



野鳥に限らず野生動物は「自分の姿」を見たことがない。鏡に映った姿を「自分」とは思わず、仲間(或いは同種のライバル)だと思うのだろう。



「鏡」というものを初めて見るのだろう。「板の裏側にいるのかな」と、何度も裏側を確認しているが、もちろん何もいない。



ついに鏡に映った自分の姿に向かって攻撃を始めた。自分が攻撃態勢を作ると、相手も同じよに攻撃してくるので、これは永遠に続く。私がカメラを遠隔操作して観察したところ、ゴジュウカラが一番関心を示し、最も長い時は20分も睨み合っていた。さて、他の野鳥はどうだろうか？